2023年英田上山棚田団活動報告

皆んなでつくる段々持続可能な社会
英田上山棚田団とは？
棚田の調査２０２３
棚田団と楽しい何か
図司教授レポート

TANADADAN

合い言葉は、

ラブステラスラブ棚ラス

棚田での営みが、関わるひと皆んなの暮らしを照らしますように。

2022 年度地球環境基金の助成を受けて棚田の活動に邁進すると共にこの冊子も作成されました。

活動を支援してくださる方々を募集しております。

お寄せ頂いた会費は、棚田維持再生の活動費に充てさせて頂きます。
＊活動費＝草刈り燃料費、草刈り刃、トラクター燃料や水路の修繕など
また、会費を頂きました方全員に会報をお送りしています。

育てて、食べて応援！

上山棚田の株主制度

- 棚田米5kg
- 株主総会の議決権
- 株主優待
- 株主様向け共同作業イベントへの参加権

【全対象】 1口 ＝ 7,500円

稲株主の野菜部

稲株主制度にお申込みをいただいた方限定で
野菜部への参加が可能（最低催行人数：10名）

【部費】5,000円 / 年

- 部費の使途 -
3,000円 ▶ 菜園部の運営費用や機械使用料
2,000円 ▶ 種代や肥料代として使用

お申込み方法

ウェブサイトからお申込み、ご入金して頂けます。
＊全て1年毎の更新となります。
＊１口以上何口でもお申込み可能です。

英田上山棚田団
https://online.tanadadan.org

ふるさと納税にも登録があります。
https://www.satofull.jp/

寄付で応援！

賛助会員制度

【個人（一般）】 1口 ＝ 3.000円/年
【法人・団体】 1口 ＝ 10.000円/年

皆様の温かいご支援の一つひとつが棚田の未来の力となります。頂いたご支援をもとに、さらに充実した活動を続けていきます。

お申込み用紙でのお届け

申込用紙を下記住所に送付のうえ
指定の口座へお振込をお願い致します。

送付先 〒701-2614
岡山県美作市上山2135
NPO法人英田上山棚田団

振込先 ゆうちょ銀行
記号/14360
口座番号/16221081
ﾄｸﾋ)ｱｲﾀﾞｳｴﾔﾏﾀﾅﾀﾞﾀﾞﾝ

新規・継続　申込用紙

＊継続で変更のない方は提出不要

＊対象となるものに☑してください。

☐ 賛助会員（個人）　☐ 賛助会員（法人・団体）

賛助口数 _____　賛助口数 _____

☐ 株主制度　☐ 稲株主の野菜部　合計金額

※株主制度へのお申込み必須

株主口数 _____　_____ 円

〒

名前　住所
フリガナ

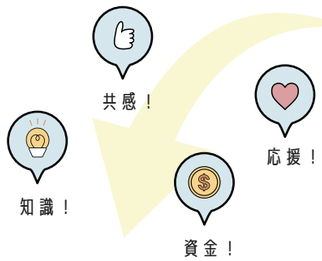
電話番号　mail

段々

皆んなでつくる持続可能な社会

ライステラスライフ照ラス

英田上山棚田団の棚田再生活動は只々、お米づくりのためだけに行っている訳ではありません。食の自給は元より、里山での暮らしづくり、都市にまで繋がる豊かな環境づくり、人材育成、保養としての棚田だったり夢を生む場所など、関係するであろう人たちの暮らしがこの棚田から照らされる様に！
そういう思いから、「ライステラスライフ照ラス」という言葉が生まれました。



都市住民

安心した食の確保
豊かな自然環境

上山の住民

皆んなの応援のおかげで
稼ぎじゃない
持続可能な農が続けられる

上山棚田

食の自給を身近なものに

生活の全てをつくる土を守る

暮らしに欠かせない水をきれいに

あいだうえやまたなだだん

英田上山棚田団とは？

岡山美作市上山地区（旧英田町上山）を拠点として耕作放棄地の開拓、
里山文化の継承を地域と共に創っていく団体です。

奈良時代ころから棚田の歴史が始まっていたとされ、江戸時代の全盛期には8300枚もの棚田があったという上山地区。

そんな集落も1970年代以降、耕作放棄地が増え続けていました。棚田団の活動が始まった2007年当時は全体の9割以上が耕作放棄地となり、棚田があった姿はなく、藪に覆われていました。最初はひたすら草刈り、笹、竹の伐採をしては燃やす作業でした。そしてある時、住民から融通された3枚の田んぼでお米作りを始めました。

2011年にはNPO法人を立ち上げ、通い中心だった活動から徐々に移り住むものが現れ、活動が急速に進んでいきました。

2022年には、10ヘクタール以上の土地を管理し、上山地域の活性化、資源を活かした商品開発、自然体験の受入れなどを進めています。

棚田団は、ただ単に棚田でお米を作ることだけを考えているわけではありません。棚田でスポーツしたり、棚田でアートしたり、棚田で哲学したり。常に棚田で〇〇することを考えています。「棚田で〇〇する団体」ということで棚田団ということになりました。

また、2007年に平成の市町村大合併で美作市と合併することになり、英田町の地名はなくなってしまいました。英田の地名に愛着を感じていた住民からはずいぶん惜しまれたそうです。棚田団も棚田の維持と共に地域の歴史や伝統文化を引き継ぐ姿勢を英田の名に込めています。

上山集落の人口（2023年現在）
約60世帯160人

内2010年以降の移住者
約20世帯40人

棚田再生の意義

おいしいお米の育成

寒暖差の大きい環境が稲をしっかりと育て
おいしいお米を実らせます。

土に水を浸透させ豊かな水資源の確保

山に降った雨を棚田や里山が
土にゆっくりと浸透させ川に流します。

緑のダムで雨を貯水

山に降った雨を棚田が貯え、地滑りを防ぎ
川へゆっくりと水を流すので洪水も防ぎます。

生物多様性と豊な生態系の維持

棚田は自然環境がもたらす恩恵の中で
たくさんの生き物を育ます。

現代人の保健休養

棚田の風景は歴史の積み重ねを感じさせ
見る人に安堵感を与えます。

伝統文化の継承

棚田を守る地域の伝統文化を守り
未来の世代い地域の誇りを伝えます。

棚田の調査

生き物・水質編

アメリカザリガニがいない

日本の田舎では珍しい!!

⬇ つまり

水生生物や水草など、
在来種の保全につながる

大芦池

底土の低酸素化によりヘドロ化
ブラックバスやウシガエルなどの
外来種が繁殖してしまっている

⬇ 改善！

定期的な池干しや
掃除などをすることが大切

上山棚田でカヤネズミを多く見かけるのは

ハゼ掛けで天日干しするために
コンバインを使わなかったり、
耕作放棄で藪化してしまった棚田を
再生したりしているため

集落内に10ヶ所ほど
巣箱を設置して
観測しています

ニホンミツバチ観測

除草剤のかかった草の朝露を
飲むこともあり悪影響がある

⬇ 改善！

除草剤を散布する範囲や
使用量を検討

ホタルを守ろうPJ

整備地区

6月頃はたくさん
ホタルを見れます

水質、生物調査の結果

水質（N・P・COD）は許容値内、
生物が多様、植生は500種以上

⬇

護岸整備していない
棚田がフィルターとなって水が濾過され
生物のすみかにもなっている
継続的な観測が必要

生物多様性を測るためには
定期的に調査を行うことが大切。
これからも引き続きみなさんと
調査を行なっていきます。

N

大芦・鳥坂

大芦池

薬師堂

八伏

坊

空

中組

後迫・小山

カヤネズミ

カヤネズミの巣を発見したら豊作のしるし！

【カヤネズミの役割って？】
日本一小さいネズミであるカヤネズミ。稲を食べちゃうと言われることもあるけどそれは巣を作る時にほんの少しだけ、それよりも稲の害になるイナゴや、ヒエなどの雑草をよく食べるよ。球巣（きゅうそう）と呼ばれる丸い巣を豊作のしるしとして神棚に飾る風習もあったとか。稲刈り中などに発見した場合は、赤ちゃんがいるかもしれないので軍手をした手でそっと近くの草ムラに置いてあげてね！

棚田団の田んぼは農薬を少ししか使っていないので、虫や草が豊富なので食糧豊かな田んぼにカヤネズミが沢山やってくるよ！

ホタル

ホタルは自然環境のバロメーター

【ホタルの減少と絶滅の原因】
環境庁の調査報告書によると、農薬使用、イワナ漁のための毒流し、殺貝剤によるミヤイリガイの駆除、牧場・養豚場などからの汚水流入、家庭排水の流入、砕石・土木工事による土砂流入、宅地造成による流水の消失・土砂流入、川砂利採取、河川・用水路改修、農地改良事業等を挙げています。しかしながら、ホタルの減少と絶滅の原因は様々であり、その多くの原因の背景には、人間社会の様々な要因が絡んでいます。

上山は圃場整備や護岸整備が少なかったため、昔ながらの生態系が残れる環境が残っていました。放棄地の藪や雑木を適切に管理していくだけで美しいホタルたちがどんどん舞い戻って来ています。

ニホンミツバチ

ミツバチが絶滅すれば人類は４年後に滅びる（アインシュタイン）

【ニホンミツバチと多様性の関係】
ニホンミツバチは多様な蜜源から蜜を集めるが、セイヨウミツバチはひとつの蜜源から集める習性がある。多様な場所で多くの植物に受粉するニホンミツバチがいないと、棚田がつくる里山の生物多様性にも影響が出てくるのだ。ニホンミツバチの天敵は、オオスズメバチやダニがあげられる。また農薬がかかった作物の葉に朝露を飲みに行って死ぬことも多いとのこと。人間は実感がないとなかなか行動できないけど、しっかりと皆んなでニホンミツバチを保護していきたいですね！

アメリカザリガニ

令和５年６月１日～アメリカザリガニの規制が始まります！

【アメリカザリガニが危険なワケ】
アメリカザリガニの生態系への影響は凄まじい。なんでも食べる雑食性で、元からいた水生生物をたくさん食べて、絶滅の危機に追いやります。水草を食べたり、はさみで切ってしまうため、ほかの生きもののすみかや産卵場所がなくなります。水草がなくなると、アオコなどの植物プランクトンによって水が濁り、生態系全体が壊れてしまい、泥沼と化してしまいます。
もし棚田に現れると巣穴による漏水もあるのでかなり厄介だ。

現在はこんな関わりあいの仕組みが生まれています

上山棚田の稲株主

上山棚田の稲株主は、棚田での農業や里山での暮らしを体験していただくための制度。
株券 1 口で棚田に植えられた稲株を 100 株保有して頂きます。稲株主の皆さんの顔を思い浮かべながら苗づくりや田植え、収穫まで行えることは棚田での作付けをする私たちにとっても作業を頑張れるチカラとなります。
上山の棚田で育つ稲株の主として、どうぞ応援宜しくお願いします！

棚田団の賛助会員

活動への賛同の意を表す意味で入会していただく会員制度。運営や作業には直接関われないけど、賛助会費によって組織を支援するという仕組みです。法人・個人で会費が別れています。もちろん、作業に参加していただく事も嬉しい事です！

ふるさと納税の返礼品

ふるさと納税とは、自分の故郷や応援したい自治体など、好きな自治体を選んで寄付ができる制度のことです。棚田団では現在、「上山棚田の稲株主」「上山棚田アイス」が返礼品として登録されています。応援、節税、買物がセットになったお得な仕組みです。都心部からの応援も多く頂いていますが、岡山県内からも増えてきており、地元貢献の熱を感じています。

いちょう庵をカリント！

カリントとは、岡山弁で借りたいっという意味を表しています。棚田団のヘッドオフィス兼コミュニティスペースである、いちょう庵を一日単位で間借りしてもらって新しい交流の場をつくっていただく仕組みです。やってみたいがあれば、まずはお声がけください。棚田団メンバーと一緒に楽しいお店を開店させましょう。3代目庵主のkumaさんが中心となってサポート致します。

○○米友達 / マイフレンズ

どこかの街で棚田米を食べながら語らう会です。棚田でのお米づくりに応援してくれた my フレンズのため、初めて出会う my フレンズのため、農閑期に棚田団メンバーが棚田の新米を持って街へ出かけます。お米だけは炊くので、皆さんご飯に合わせたいお勧めおかずを持ってきてくださーい！というスタイル。米炊きに行かせてもらえる場所ありましたらお声がけください。

共同プロジェクトや研修など

160 人の上山集落をまるごと使って一緒に未来を創造したり、棚田の農地で交流したり、どういう暮らし方をしているの？にお答えしたり。この現場で出来る楽しいこと、面白いことを皆んなで考えましょう。それがきっと中山間地を基軸とした日本の暮らしを守っていくことになると信じています。

都市農村交流による棚田保全が地域内外に与える影響の検証 ~棚田再生から農村再生へと展開した上山地区の 15 年~

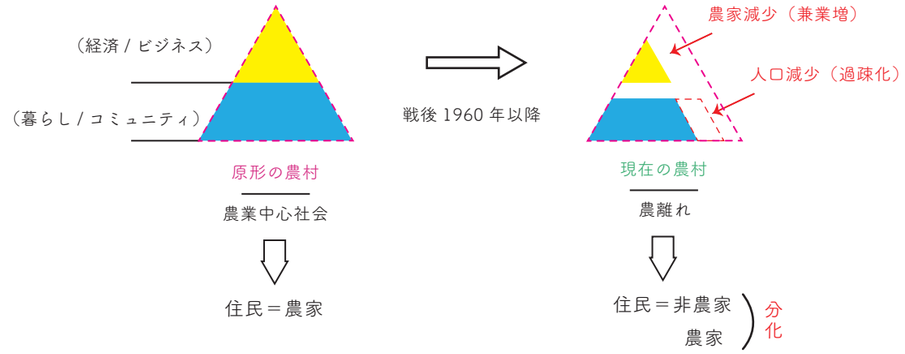
図司直也教授（法政大学）に上山集落を調査していただきました。
＊調査レポートの中から一部抜粋させて頂いた内容になります。

法政大学現代福祉学部教授
図司直也氏
（集落内のじゃがいも畑前にて）

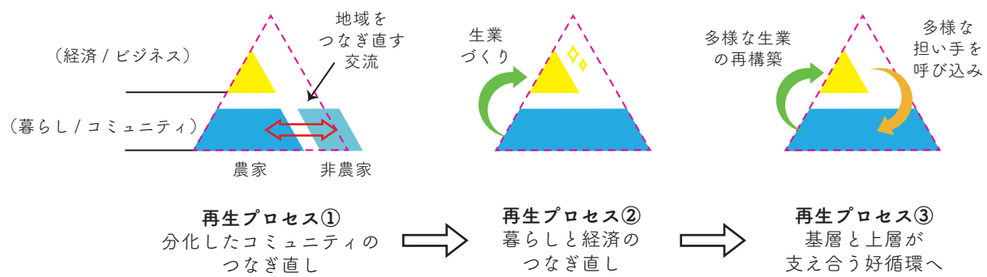
1960 年代は上山の転換期であり、その十年間にさま ざまな変化が静かに進んだ」との指摘がある。その内実は、1962 年に始まった農林省の地滑り防災工事、それに続く大芦池の堤防修理、用水路のコンクリート化、道路の拡幅など一連の公共工事であり、減反政策が進む中で、地域住民が就労機会を持ち、近隣の工場にも出稼ぎに出るようになったという。次いで、戦後農業を担ってきた世代の高齢化に伴い、農業を営む後継者が不在となり、70 年代後半か らはじまった耕作放棄が 90 年以降一挙に広がった。1960 年代の米の作付面積は 60 町歩の高水準だ ったのが、2009 年には 5 町歩あまりと、最盛期の 1 割にも満たなった。千年ものあいだ営々として開拓してきた棚田が荒れるのは、呆気ないほど簡単だったようだ。

日本の農村は、暮らしやコミュニティにあたる基層と、市場経済、ビジネスに関わる上層 の 2 つの層がバランスよく積み上がっている状況、下の図で言えば、農業中心社会として三角形で表現できる「原形の農村」の形で維持されてきた。この二層構造が戦後に大きく崩れ、過疎化では、農村全体の 人口減少として、三角形そのものが縮小し、加えて、兼業化によって専業農家の数が少なく なり、上層の三角形はさらに小さくなっている。他方で、基層の部分も、過疎化に伴い地域住民が減 少し、さらに混住化により集落の中でも農業に関わりを持たない非農家が入り混じり、本来の農村を 体現してきた農家の存在が細って、コミュニティも質的変化に直面するところも出てきている。上山地区でも図右の「現在の農村」のような時代の推移によって、農業生産の基盤となってきた棚田のみならず、集落の身の回 りの水利や農道などを自らの手で管理する作業の維持が難しくなっていた。

農村社会構造の変化を表わした図（特に稲作農家中心の農村社会）



上山地区でも、2007 年から始まった英田上山棚田団による一連の棚田再生の活動をきっかけに、2010 年からは地域おこし協力隊制度を活用した移住者の受け入れもあって、若者世代を中心に多彩な顔ぶれが、自らのライフスタイルと地域のつながりを活かす形で多業化による「なりわいづくり」が試みられている。併せて、彼らには、「集落には稼ぎに直結しない仕事や集まりが数多くある」ことや「集落の根底にある活動を疎かにしてはいけない」という共通理解があり、上山での米作りや山仕事が、なりわいの基盤になり得るものとして位置づいている。

給料を投じるばかりのこれまでの「赤字」の米作りからの脱却を目指した、農村発イノベーションの展開も注目される。移住者のチームとして米づくりに取り組むことで、機械のシェアリングや販路、流通、消費者まで織り込んだ農業部門での再生産可能な仕組みを形にすべく、上山棚田の株主制度（稲株主制度）として、作付け前に農業経費の一部を都市住民にカバーしてもらうことで、安定的な形で農地保全を図る枠組みを立ち上げ、そこに各自の本業としての地域内での仕事を組み合わせた、新しい「集落営農」の形が模索されている。

農村社会の再生プロセス